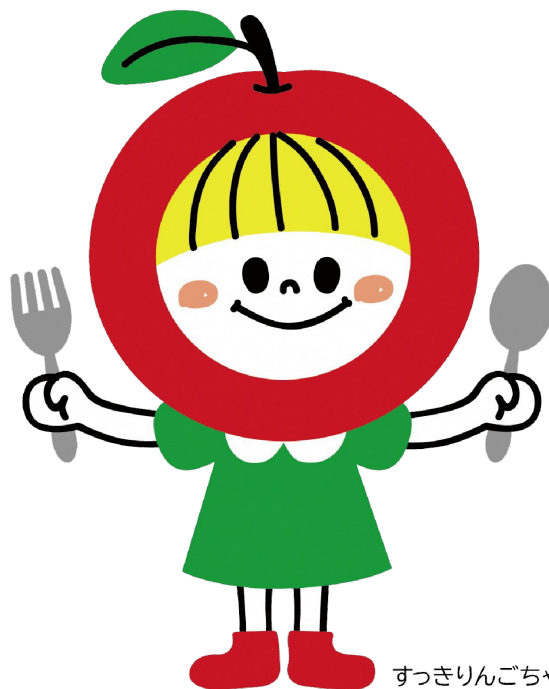


フードドライブ 運用マニュアル

～みんなが取り組むために～



すつきりんごちゃん

目次

- | | | | |
|--------------|---|----------------|----|
| 1. はじめに…………… | 1 | 4. フードドライブの実施… | 8 |
| 2. 実施計画の作成… | 2 | 5. 実施後の作業…………… | 10 |
| 3. 事前準備…………… | 5 | 6. おわりに…………… | 10 |

富山県生活環境文化部環境政策課
(公財) とやま環境財団

令和3年3月

1. はじめに

このマニュアルは、食品ロス削減の取組みを促進するため、家庭で余っている食品の有効活用策となる「フードドライブ」の取組みについて、令和2年度に富山県がモデル的に実施して得られた課題などを整理し、実施する際の手順や注意点などをまとめたものです。

今後、様々な団体がこのマニュアルが活用され、県内で幅広くフードドライブが実施されることを期待しています。

① フードドライブとは

家庭で余っている食品を集めて、食品を必要としている福祉団体や子ども食堂などに寄付する活動です。



② フードドライブの必要性

食べられるにもかかわらず捨てられてしまう「食品ロス」については、日本では年間約600万トン発生しており、その量は1人1日あたり茶碗1杯分のごはんを捨てていることになるといわれています。

また、富山県の家庭で発生する食品ロスの内訳は、未開封・未使用のまま捨てられている「手付かず食品」が食べ残しの約2倍あり、その割合は全国より高くなっています。

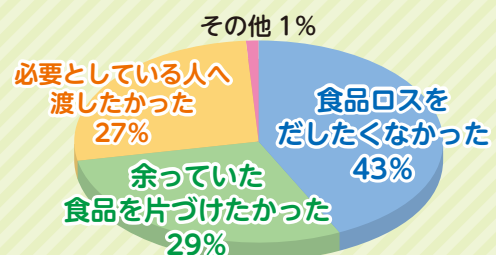
フードドライブは、この「手付かず食品」を削減するために有効な方法であり、また、食品ロスの削減だけでなく、食べ物を必要としている方達への支援にもつながります。

食品ロスの主な課題

- 日本は食料の約6割を海外に依存
- 食品の生産時などのエネルギーのロス
- 焼却処理に係るCO₂の排出、費用の発生

【参考※】食品を提供した理由は？

アンケートでは、70%以上の方が、「食品ロスを出したくなかった」、「余っていた食品を片づけたかった」と回答しており、「手付かず食品」が眠っている家庭が多いことがうかがえます。



※【参考】については、令和2年度に県がフードドライブをモデル実施した際のアンケート調査などから得られた結果について記載しています。（以降も同じです。）

2. 実施計画の作成

① どうやって集める？

フードドライブは、自治体で、地域住民で、学校で、職場で、など様々な機会を捉えて取り組むことができる活動です。

スポット的、イベント的に集める

自治体がイベント的に窓口などで
学校の文化祭で
イベントのブースで など



定期的集める

自治体が役所の窓口で
会社が営業窓口で
スーパーのサービスカウンターで など



また、初めて取り組むときなどに、「食品が多く集まるか不安」、「提供先がわからない」といった場合でも、自治体やマスコミなどに情報提供して連携することで、スムーズに進めることができます。

② 集める食品をどこに届ける？

食品を必要としている団体等は、例えば以下のような団体等があります。

福祉施設

生活困窮者

こども食堂

県内にどのような団体等があるかは、県HP (<https://foodlosszero.jp/column/3660>) に掲載しています。また、地域の社会福祉協議会などにも相談してみるとよいです。

食品の提供先となる団体に、フードドライブで集めた食品を寄付したいことを伝え、了解いただいた上で、以下のことを調整します。

・集める食品の種類

どういった食品を集める予定かを説明し、受入れ不可の食品があるかなどを確認します。

・引き渡し日時、引き渡しの方法

提供先団体との調整次第ですが、基本的には、提供先団体が希望する場所まで、実施団体が運搬できるようにしましょう。

3 集める食品について

食品衛生上の問題が生じないように、例として以下の条件を設定し、すべて満たす食品を集める方法があります。

- 常温で保存できるもの
- 未開封で、包装が破損していないもの
- 賞味期限まで1か月以上あるもの

(期間は提供先団体と調整して変更できます。回収から提供まで日数を要する場合は、2か月にする場合もあります。)

- 商品説明が日本語で表記されているもの



なお、最終的には、提供先団体と調整して集める食品を決定します。その際、受入れ不可の食品など（アルコール飲料、食物アレルギーを引き起こす食品など）も確認しておきます。

※米については、賞味期限などの記載がなく、また、収穫年がわかりにくい場合もあり、受入れには注意が必要です。

しかし一方では、必要としている方が多い食品でもあります。

提供先団体と事前に調整して、例えば「古米（前年の秋に収穫されたもの）まで」、「販売者、産地が表示された未開封のもの」などといった条件を定めておくとういことです。

【参考】集める食品を限定した簡単なフードドライブ

提供先団体によって必要とする食品の種類が異なることがあります。

例えば、生活困窮者へ配布される場合は、レトルト食品やカップ麺など、調理の手間がかからないものが喜ばれます。また、こども食堂や施設などの場合は、乾物や調味料など調理の材料となる食品が求められるケースがあります。

「はじめてのフードドライブで何がどのくらい集まるかわからない」、「配布しきれんかわからない」という場合は、提供先団体の要望も確認し、集める食品を限定したフードドライブを行うのも1つの方法です。

例) 生活困窮者の支援のためのフードドライブ
集める食品：レトルト食品、カップ麺のみ

【参考】どんな食品が集まりやすい？

県が実施したフードドライブでは、うどん、そうめんなどの乾麺、お菓子などのほか、昆布やコーヒー、焼きのりなども多く集まりました。

提供した食品を選んだ理由では「もらいもので使い切れない」を選んだ方が多かったことから、これらはお歳暮、お中元、お返し等でもらったものが家庭に眠っていたものと思われる。



多く集まった主な食品の種類

順位	食品の種類	割合
1	乾麺（うどん、そうめんなど）	15.4%
2	お菓子（クッキー、スナック菓子など）	14.0%
3	缶詰（さば缶、いわし缶など）	6.5%
4	調味料（油、砂糖、醤油など）	6.3%
5	昆布、かつお節など	5.8%
6	コーヒー（インスタントコーヒーなど）	5.5%
7	焼のり、味付けのり	4.5%

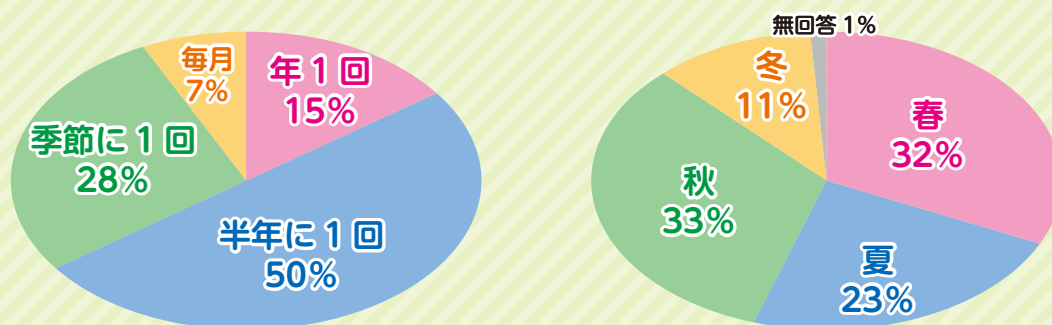
4 実施時期について

①フードドライブのみをイベント的に実施する方法、②他のイベントに併せて実施する方法、③月に1回など定期的に実施する方法があります。

①の場合は、2～3日間を実施期間とする場合が多くみられます。

【参考】望ましい実施の頻度、時期は？

アンケートでは、実施頻度については、半年に1回の開催を望む人が多い結果となりました。実施時期については、降雪の心配のない冬以外の季節を望む意見が多かったものの、地域のイベントに合わせて無理なく行うのもよいと思われます。



5 実施場所について

以下のスペースを確保できる場所を選定します。（詳細なレイアウトはP.7参照）

○ 受付場所

自治体、企業などが大きな施設で実施する場合は、建物入口近くなど、人が集まりやすい場所や人の流れの近くに受付場所を設けると、人の目につきやすくなります。そのような場所での実施が難しい場合は、のぼりや案内表示を設置するとよいです。

○ 回収した食品を保管する場所

受付場所のそばに設置して、回収作業をスムーズにできるようにします。また、食品衛生上の観点から、直射日光が当たる場所や高温多湿の場所を避けます。

スタッフがいない別の部屋などに保管する場合は、施錠できる部屋とするなどの対策も必要です。

（その他）

- ・ショッピングセンター等で実施する場合は、提供する食品と購入した商品が混同しないよう動線の工夫が必要です。
- ・市役所など窓口があるところでは、そこを受付場所とすることで、スタッフの数やスペースを少なくすることができます。



3. 事前準備

① 実施のお知らせ、広報について

実施の日時・場所、集める食品の条件などが決まったら、それらについて以下のような方法で周知します。

チラシ（窓口やイベント、回覧板などでの配布）、ポスター（窓口、スーパー店舗などでの掲示）、ホームページ、SNS、広報紙、テレビ、ラジオ、新聞

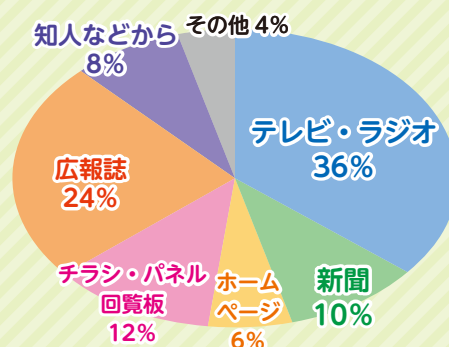
この時に、集める食品の条件をしっかりと伝えるようにします（条件が合わずに持ち帰りとなってしまふことを防ぐため）。集める食品の例を示すことも有効です。

【参考】フードドライブの実施を何で知ったか？

アンケートでは、1/3以上がテレビ・ラジオという回答でした。

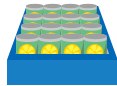
フードドライブの実施の様子をテレビのニュースなどで見た人が、2日目以降に食品を提供しにくる、というパターンが多かったと思われます。

事前にマスコミに情報提供することも、多くの食品を集める有効な方法です。



② 資器材の準備

実施日に使用する資器材について、例も記載したリストを県ホームページでダウンロードできます（<https://foodlosszero.jp/column/3660>）。主なものとして以下があります。

受付票	食品を寄付される方に氏名等を記載してもらうためのものです。（例はホームページからダウンロードできます。）
長机、椅子	受付時に受付票を記入してもらったり、食品をチェックしたりする際に使います。また、食品を入れた箱を置くためにもあると便利です。
食品を入れる箱	集めた食品を分類して保管するため、多めに用意します。段ボールでもよいですが、重くなったり積み上げたりするため、コンテナなどの丈夫なものがよいです。また、分類名を書いた紙などを箱に貼っておくと、スムーズに分類できます。
かご	受け取った食品を、分類する前に一時的に置くためのもので、食品のチェックの際など、あると便利です。 
はかり	寄付された食品の重量を計量しておく、実績を重量で示すことができます。g単位で量れるものと、kg単位で量れるものの2種類があると便利です。
のぼり、案内看板	回収場所をわかりやすくするために設置します。

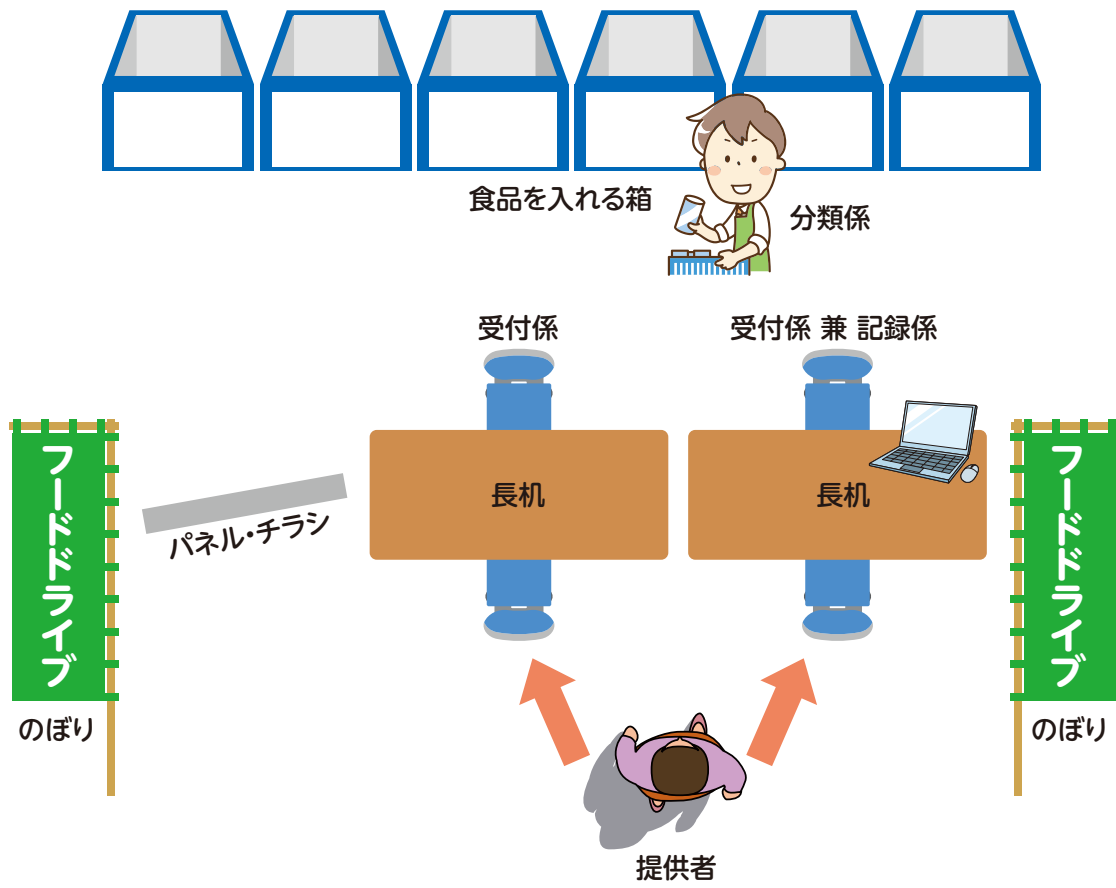
以下のものは県で貸出ししています。詳しくは環境政策課までお問い合わせください。

- ・コンテナ（容量50L、20個）
- ・のぼり（10本）
- ・フードドライブ説明パネル（A1サイズ2枚組）

資器材リスト（例）

- | | |
|-------------------------------------------------------------------|------|
| <input type="checkbox"/> 長机 | 台 |
| <input type="checkbox"/> 椅子 | 脚 |
| <input type="checkbox"/> 受付票 | 枚 |
| <input type="checkbox"/> 筆記用具（鉛筆、消しゴム） | 本、 個 |
| <input type="checkbox"/> 食品を入れる箱（段ボール箱でも可） | 個 |
| <input type="checkbox"/> 分類名を書いた紙（2～3組） | 組 |
| <input type="checkbox"/> かご | 個 |
| <input type="checkbox"/> はかり（体重計など、kg単位ではかれるもの） | 個 |
| <input type="checkbox"/> はかり（キッチンはかりなど、g単位ではかれるもの） | 個 |
| <input type="checkbox"/> 電卓 | 個 |
| <input type="checkbox"/> ノートパソコン | 個 |
| <input type="checkbox"/> 延長電源ケーブル | 個 |
| <input type="checkbox"/> のぼり（のぼり旗、ポール、土台） | セット |
| <input type="checkbox"/> 案内表示（チラシ、案内板等） | 枚 |
| <input type="checkbox"/> 文房具（メモ用紙、カッターナイフ、はさみ、マジック、セロテープ、養生テープなど） | 式 |
| <input type="checkbox"/> ごみ袋 | 枚 |
| <input type="checkbox"/> 消毒用アルコール
（新型コロナウイルス感染症対策） | 個 |

レイアウトの例



黒部市役所で実施したフードドライブのレイアウト

4. フードドライブの実施

① 役割分担

以下のような役割分担を決めておくと、作業がスムーズになります。受付方法やイベントの規模などにより異なりますが、概ね3～4人程度のスタッフが必要となります。

係	内 容
①受付係（1～2名）	・ 受付票の記入のお願い ・ 食品の受取り、期限などの確認
②記録係（1名）	・ 食品の種類、数量などの記録
③分類係（1名）	・ 食品の分類分け、整理
その他 （①～③と兼ねることもできます。）	・ 提供者の案内、運搬の補助 ・ マスコミ対応 ・ 提供先団体との調整 など

② 受付手順

食品を受付する際の流れは以下のとおりです。スムーズに行えるよう、事前に受入条件や分類方法について、スタッフに説明しておきましょう。

①受付係が、提供者から食品を受け取り、提供者に受付票の記入をお願いする。

②集める食品の条件を満たしているか、食品を1つずつチェックする。
（受入条件に合わない食品があった場合は、提供者に返却する。）

③全ての食品のチェックが終われば、受付は終了。記録係に食品を渡す。

④記録係は、食品の種類、数量などを記録する。

- ・ 手書きによる記録も可能ですが、多くの食品を集める場合は、ノートパソコンでデータ入力すると、集計作業やリストの作成が効率的になります。
- ・ 重量も記録する場合は、パッケージに記載された重量を記録しますが、記載がない場合は、はかりなどで計量します。（個別に計量せず、実施後に箱単位などで計量する方法もあります。）

⑤分類係に食品を渡し、分類係は分類ごとに分けた箱に入れる。



受付係
（受付票の記入のお願い、食品のチェック）



記録係
（食品の種類などのデータ入力）

3 分類方法

提供された食品を効率的に活用するため、提供先団体と事前に調整し、食品の分類方法を事前に決めておきます。

以下に例を示します。

分類	備考
米	事前に詳細な受入条件を定めておく。 (P.3参照)
缶詰・瓶	開けて、そのまま食べられる食品 (ただし飲み物は『飲料』、調味料は『調味料』)
レトルト食品	常温のまま、または温めて、すぐに食べられる食品
インスタント食品	お湯または水等を使って食べる食品
お菓子	そのまま食べられるお菓子類 (ただし、水(湯)等を入れて食べるものは『インスタント食品』)
飲料	そのまま飲むか、お湯または水を入れて飲む食品 (粉末飲料も含む。)
調味料	食べ物に味をつける食品
粉物	穀物等を砕き微細な粒状に加工した食品
乾物・その他	乾燥させた食品やその他分類の食品

- ・ 上記はあくまで例であり、提供先団体と調整して、より簡単な分類にすることもできます。
- ・ これらの分類とは別に、賞味期限まで短い食品（1～2か月など）を分けておき、提供先団体にわかるようにしておくこと、提供した後に期限切れになってしまうことを防ぐことができます。



5. 実施後の作業

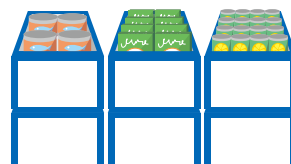
① 引渡し先との調整

集まった食品を整理し、食品の種類、数量などをリスト化しておきます。このリストを食品と併せて提供先団体に渡せば、提供先団体がスムーズに分配したり、計画的に消費できるようになります。

次に、提供先団体におおよその量を伝えた上で、引渡しの日時、場所を調整します。

② 引渡しまでの保管場所について

- ・直射日光が当たらない場所
- ・雨等で濡れない場所
- ・高温多湿にならない場所
- ・施錠でき、動物や昆虫が入らない場所



③ その他

食品を提供先団体に引き渡す際に、贈呈式などといった場を設けることで、フードドライブ実施団体の活動の成果をPRできるだけでなく、食品提供者に対しても実施結果や食品の有効活用先をお知らせすることができます。

ホームページやSNSなども含め、今後、フードドライブの取組みがさらに広がるよう、積極的に発信していきましょう。



贈呈式の様子

令和2年10月30日～11月1日に富山県、アルビス株式会社、（公財）とやま環境財団の共催でフードドライブを実施し、集まった食品を（福）富山市社会福祉協議会に贈呈し、生活困窮者支援等に取り組む団体などに提供しました。

6. おわりに

提供先団体等からは、「コロナ禍で食を必要とする人が増えているので助かった。」「もらった食品には普段は購入しないものもあり、食卓が賑やかになった。」などという意見も聞かれます。

食品の有効活用となるだけでなく、食べ物を必要とする方達の支援にもつながるフードドライブの取組みの輪を広げていきましょう。

とやま食ロスゼロ作戦ホームページ

県内の食品ロスの削減に関する情報を集約し、発信しています。

< 掲載内容 >

- ・理解度診断「使いきり 食べきり すっきり診断」
- ・関連イベントの告知
- ・食品ロス等削減運動宣言協力事業者の募集・紹介 など

<https://foodlosszero.jp/>

とやま 食品ロス



で検索！



問合せ先

富山県生活環境文化部環境政策課

〒930-0005 富山市新桜町5番3号

TEL 076-444-3140